



MY HOME DOCTOR

生かすのがいい



散歩道

中央公園より 薬院新川

天神中央公園にある、さくら広場は、桜の名所として知られています。「ソメイヨシノ」、「サトザクラ」、「ヤマザクラ」など約50本の桜が植えられており、満開を迎える頃には薬院新川沿いに桜のトンネルが出来ます。



健康 随筆

養生訓の里ネットワーク

藤野 博史

江戸時代から読み継がれ、今も健康指南書として有名な貝原益軒の「養生訓」。全国の医療・保健関係者、健康志向の市民なら知らぬ人はいないであろう。反面、地元では、顕彰の広がりが今ひとつ。そんな思いを抱いていた。

ところが、十数年前、曾田豊二・元福岡大病院長（故人）ら名誉教授仲間が語らって開いた無料養生相談室を手伝うことになった。事務局を九大の同窓生だった安藤精弥・前理事長（故人）の西福岡病院が引き受けていた。

相談室の基本は養生訓。筆者も読売新聞記者時代、市民公開講座「現代の養生を考える」を開いて支援した。登壇者、参加者が「私の養生十訓」を披露し合って、意気投合した。「養生訓を大切にし、健康長寿をめざそう」。皆さんの熱意を感じて、調べると、地元ならではの関係者、ゆかりの地などに気付いた。

市内には益軒のご子孫が健在。博多区祇園町で整形外科医院を営んでおられ、益軒以来の秘儀が伝わる。中央区今川の金龍寺には益軒夫妻の墓と益軒の銅像がある。城南区別府の中村学園大学には貝原益軒アーカイブ、福岡市総合図書館には益軒史料があり、博多区川端・リバレインには、養生訓の著書もある原寛・原土井病院理事長が主宰する養生苑がある。西福岡病院の安藤文英理事長は隣接地に、養生をライフワークとした曾田豊二の記念文庫を開設した。

それら点在する顕彰の芽を繋ぎ、線にし、面にする「養生訓の里」ネットワークづくりを今年度、始めたい。（日本医学ジャーナリスト協会理事・西日本支部長）



西福岡病院の理念

地域の人々に信頼される納得と安心の医療・介護・福祉の提供を目指します。